

事務事業名(細目)	文化財保護調査・啓発事業	担当部課	教育委員会文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 001 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)	事業開始年度	評価区分	評価
	18 後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	歴史文化遺産は、地域の歴史と先人たちの営みや思いを現在に伝え、住民の誇りや愛着心を高めるものである。市内の貴重な史跡、建造物、近代化遺産、天然記念物、民俗芸能など様々な歴史文化遺産を把握、調査研究を行い、その価値付けと適切な保護を実施するとともに、指定・登録を推進する。			
事業の受益者(直接的対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位 人
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財保護事業 <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会の開催(6月、3月に開催。新たに市指定文化財として「進藤家住宅」を決定した。 文化財保護に関する協議会を通じての研修、保護活動の推進 文化財保護に関する事務 重要文化財赤瀬神社本殿の防災保守点検事業に対する補助(補助金16万円) ○神戸大学地域連携事業(委託料600千円) <ul style="list-style-type: none"> 市内に所在する古文書の調査研究及び整理を神戸大学との共同研究により整理、調査を行った。 奥銀谷地域で確認された古文書について、神戸大学の指導を受けながら地域住民らとともに整理、調査を行った。 研究成果として、3月に展示会と講演会を行った。 ○市指定文化財説明看板設置・修理事業(44千円) <ul style="list-style-type: none"> 県指定天然記念物八代の大ケヤキ、牧田城跡の説明看板、旧木村酒造場国登録看板を新たに作成した。 赤松広秀公供養塔案内板および家康尊像と歴代将軍の説明看板を修繕した。 ○過去の特筆すべき事業 <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度「史跡竹田城跡」製本(印刷費:693千円) 平成26年度「生野鉱山及び鶴山町の文化的景観」構成要素の建築学及び住居学調査委託(1,600千円) 			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
1.報酬	63,000	文化財保護審議会委員報酬	81,000
9.旅費	220,310	委員・職員出張旅費	193,650
11.需用費	0	消耗品費	44,496
13.委託料	600,000	古文書調査研究委託料	600,000
15.工事費	250,560	工事請負費(市内文化財説明板工事)	0
19.負担金補助及び交付金	116,000	全国史跡整備市町協議会等負担金	216,000
合計	1,249,870		1,135,146
財源内訳			
特定国庫支出金			
特定県支出金			
地方債			
その他	100,000	山田家文書調査寄付金	100,000
一般財源	1,149,870		1,035,146
合計	1,249,870		1,135,146
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
1.報酬	文化財保護審議会委員報酬	76,500	72,000	81,000	63,000
8.報償費	講演会講師等謝礼	0	126,000	0	0
9.旅費	委員・職員出張旅費	338,450	412,400	193,650	220,310
11.需用費	消耗品、印刷費	997,802	334,421	44,496	0
13.委託料	調査研究委託料	700,000	2,200,000	600,000	600,000
15.工事費	工事請負費	52,500	139,320	0	250,560
19.負担金補助及び交付金	全国史跡整備市町協議会等負担金等	98,000	113,000	216,000	116,000
事業費計		2,263,252	3,397,141	1,135,146	1,249,870
[4]正規職員人件費		8,950,000	11,664,000	3,642,000	1,162,700
[5]臨時職員人件費		2,490,000	3,212,000	518,000	87,880
[6]総合計		13,703,252	18,273,141	5,295,146	2,500,450
財源内訳					
特[7]国庫支出金		0	1,000,000	0	0
定[8]県支出金		0	500,000	0	0
財[9]地方債		0	0	0	0
源[10]その他		481,450	0	100,000	100,000
[11]一般財源		13,221,802	16,773,141	5,195,146	2,400,450
[12]合計		13,703,252	18,273,141	5,295,146	2,500,450
[13]国庫支出金を除いた比率		100.00%	55.85%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
古文書講座の開催	回	11	12	17	30
文化財保護審議会の開催	回	2	2	2	2
<変化の理由> 文化財保護審議会によって指定文化財の選定、調査等を実施するが、年度当初と年度末の計2回開催にとどまっている。古文書整理講座については、平成25年度から山田家文書の整理を実施しており、基本的に毎月1回奥銀谷地域自治協議会にて実施している。平成27年12月からは、石川家文書の整理を開始し、月2回ペースで実施している。地域住民の参加も徐々に増加し、地域の興味も上がりつつある。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
古文書講座の参加者数	人	80	100	140	200
<変化の理由> 毎月1回開催から2〜3回に増加し、地域住民の参加も増加していることから、目録作成の成果があがっている。古文書から読み取れる当時の生活文化だけでなく、聞き取り調査等も実施し、毎年3月に成果報告、展示会を実施している。					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	1〜2人の担当者ですべての文化財業務を担うことになっているため、全ての文化財の対応ができず、取捨選択しなければならなくなっている。価値を明確にするための調査に手が回っていない。	文化財担当職員と市上層部との意思共有、連絡体制が取れていない。	
今後の方向性、見直し等	文化財担当職員だけでなく、一般事務のできる職員の配置を促す。	平成29年度から、本庁舎に文化財課が設置されたことにより、報告、相談が行いやすい環境になった。今後は常に報告を行いながら、市の方針に則した業務を実施していく。	

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
古文書講座の参加者数	171,291	182,731	37,822	12,502
<変化の理由及びそれへの対応策> 古文書整理講習会を27年度から月2~3回実施するようになり、また地域住民の技術も上がってきたため、整理点数が増加、効率も上がっている。 地域の関心も高くなってきており、今後も参加者の増加が期待できる。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見(アンケートなど)	市民アンケートによると、「地域の歴史文化が大切にされている」に対し、60%以上がそう思うと回答しており、一定の理解を得ている。今後は周知を強化しなければならない。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	神戸大学との地域連携は、朝来市が他市町に先駆けて実施しているものである。
【3】代替サービスの有無	なし

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◆継続実施 ◇文化庁の方針として、「歴史文化遺産を活用して観光振興や地域振興を目指す」ことが明確に示されている。朝来市も、竹田城跡や生野館山などの歴史文化遺産を観光振興に活かしていくため、適切な保護活動、調査啓発事業が必要である。 とくに、古文書調査などは、地域の生活文化を解き明かし、地域住民にとって文化財との距離感を埋めやすい資料であるため、今後も積極的に調査を実施すべきと考える。
A 事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	地域に残された歴史文化遺産は、地域の歴史と先人の営みにより継承された大切なものであり、地域の誇りと愛着心を醸成するとともに、観光振興や地域振興にも寄与するものであり、継続して実施すべきものと考える。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	2次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	文化財保存活用事業	担当部課	教育委員会文化財課
予算コード	10-05-04-200-01		
※: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)		事業開始年度	評価区分	評価
	18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 24	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	<p>朝来市は、古代から中世、近現代にかけて幅広く貴重な文化遺産が多く存在している。また天然記念物も豊富に生息する環境である。それらを適切に保存し、住民の誇りの醸成と地域活性化に寄与する活用方法を検討、実施することで、市内外に向けて朝来市歴史文化遺産の価値を上げていく。</p>				
事業の受益者(対象者)	朝来市民	受益者数(対象者数)	31,271	単位	人
事業の実施内容等	<p>○文化財保存整備計画策定事業 ・生野鉱山及び鉱山町の文化的景観整備計画を策定した(3,576千円) 国の重要文化的景観に選定された生野地域の景観整備計画策定した。生き続ける文化財として、地域住民の生活と鉱山町の景観を継承するため、10年後の町の将来像と整備の方針を定めた。 ○天然記念物の保護業務 ・国特別天然記念物オオサンショウウオの円山川流域での生息調査を実施した(委託料529千円)。 ・県指定天然記念物「延応寺の大ケヤキ」の修繕工事を実施した(工事主体:延応寺 補助金1,908千円)。</p>				

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	134,000	委員会委員等謝礼、講座講師謝礼	254,000
9.旅費	201,540	委員職員等出張旅費	447,030
11.需用費	249,460	消耗品費、印刷費、原材料費	3,174,230
12.役務費	0	手数料	0
13.委託料	3,520,800	計画策定委託、設計監理委託、環境生息調査委託	4,605,552
14.使用料及び賃借料	0	会場使用料	6,520
15.工事費	0	茅葺住宅修復工事	4,985,280
19.負担金補助及び交付金	1,908,000	延応寺大ケヤキ修繕工事補助金	0
合計	6,013,800		13,472,612
財源内訳	特定国庫支出金		1,788,000
	特定県支出金		4,017,740
	特定地方債		894,000
	特定その他		
	一般財源	3,331,800	
合計	6,013,800		13,472,612
国庫支出金を除いた比率	55.40%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
8.報償費	委員会委員等謝礼、講座講師謝礼	738,590	654,400	382,000	134,000
9.旅費	委員職員等出張旅費	559,660	623,700	488,000	201,540
11.需用費	消耗品費、印刷費、原材料費	2,380,403	1,032,570	2,110,000	249,460
12.役務費	手数料(新聞折込)	65,309	44,193	0	0
13.委託料	計画策定委託、設計監理委託、環境生息調査委託	43,381,611	6,429,628	4,610,000	3,520,800
14.使用料及び賃借料	資材レンタル料他	201,975	0	0	0
15.工事費	竹田城跡環境整備工事 茅葺住宅修復工事	43,114,260	9,340,000	4,986,000	0
16.原材料費	茅材料代	203,700	129,600	0	0
19.負担金補助及び交付金	延応寺大ケヤキ修繕工事補助金	0	0	0	1,908,000
事業費計		90,645,508	18,254,091	12,576,000	6,013,800
【4】正規職員人件費		14,890,000	12,695,000	6,983,000	8,532,850
【5】臨時職員人件費		268,000	803,000	1,297,000	119,600
【6】総合計		105,803,508	31,752,091	20,856,000	14,666,250
財源内訳	特【7】国庫支出金	7,000,000	8,000,000	4,017,740	1,788,000
	定【8】県支出金	3,500,000	4,000,000	1,497,000	894,000
	財【9】地方債	0	0	0	0
	源【10】その他	48,142,200	0	0	0
	【11】一般財源	47,161,308	19,752,091	15,341,260	11,984,250
【12】合計	105,803,508	31,752,091	20,856,000	14,666,250	
【13】国庫支出金を除いた比率		88.42%	34.26%	56.15%	55.40%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
市内観光客数	人	2,594,037	2,617,677	2,450,422	2,293,496
<p>《変化の理由》 竹田城跡維持管理、生野文化的景観関係、歴史文化基本構想策定等の各種委員会の開催回数はほぼ変わらない。毎年、何らかの整備計画や管理計画等を検討、策定している。これらは、歴史文化遺産の保存活用の在り方について現在の方針、考え方を後世に伝えていくために必要なものである。</p>					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
市内観光客数(生野鉱山、竹田城跡、埋蔵文化財センター)	人	629,565	689,840	526,893	424,113
<p>《変化の理由》 竹田城跡の観光客が減少しているため、数値は減少しているものの、市内の他の歴史文化遺産のメディア等への露出が増加し、地域住民の関心も高まっている。日本遺産認定を契機として、市内歴史文化遺産の地域振興への活用や、郷土愛の醸成を推進していく。竹田城跡の熾発的な人気のピークを過ぎ、今後は何れも防げたいと思ってもらえる事業実施が求められる。現状の竹田城跡、生野鉱山等に防れる観光客のリポート率を検証するため、アンケートなどを実施していく。</p>					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	竹田城跡と生野鉱山、茶すり山石垣など市内の歴史文化遺産をつなぐ総合的な観光ルートの情報発信ができていない。	重要文化的景観、日本遺産の地域住民への周知不足	
今後の方向性、見通し等	市内全体の文化財マップ等を作成し、広く周知を図る。	シンポジウムの開催、パンフレット等の作成、配布、学校機関との連携強化により、地域への露出、啓蒙を図る。	

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
市内観光客数(生野鉱山、竹田城跡、埋蔵文化財センター)	168	46	40	35
<変化の理由及びそれへの対応策> 竹田城跡や生野銀山など、朝来市文化財観光のシンボルタワーの保存と活用の両立について議論を重ね、多くの観光客が訪れても変わらず文化財を守ることができ、さらに魅力を発信していくための事業を実施する。				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見(アンケートなど)	オオサンショウウオ夜間観察会への参加者へのアンケートでは概ね反応が良く、継続を望む声強い。地域に残る歴史文化遺産を地域住民が身近に感じられる情報発信、事業を展開していく。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	竹田城跡の保存活用、生野鉱山及び鉱山町の文化的景観の国選定、日本ハンザキ研究所との連携等、文化財の活用については他市町に比べて積極的である。
【3】代替サービスの有無	無し 日本ハンザキ研究所等と、より積極的に連携を図る。

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇継続実施すべきである。 ◆日本遺産認定により、地域の歴史文化遺産を地域振興に結び付けることで、市民の誇り、郷土愛を醸成し、観光振興によって広域的な経済の発展を目指す。文化財が地域創生の切り札であると自覚し、積極的な保護を図っていく。 また、オオサンショウウオの生息数が日本有数であることも、自然が豊かである朝来市の魅力の一つであるとともに、今後も適切な保護調査、情報発信を積極的に実施する。
A 事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	それぞれの地域に存する歴史文化遺産等を活用したまちづくりについては、今後においても地域住民とともに取組を進めるべきであると考え。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
B サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	3	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
○ 継続実施	継続実施とするが、文化的景観整備計画(生野)に則り、文化財の浸透を促進すること。
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	文化財保存活用事業(旧竹田城課所管)	担当部課	教育委員会文化財課
予算コード	10 - 05 - 04 - 200 - 45		
※: 教育費	項: 社会教育費	目: 文化財保護費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)	事業開始年度	評価区分	評価
18	後世に残したい歴史文化遺産の保存活用	H 27	事業種別	3.施設等整備事業
事業の目的	歴史文化遺産である竹田城跡を後世に引き継ぐための計画を策定し、環境の整備を実施する。また、朝来市を代表する史跡である竹田城跡に関する学習や周知活動を行うことで、市民が歴史文化遺産の価値を再認識し、ふるさとに対する誇りや愛着心を高める。			
事業の受益者(対象者)	来城者	受益者数(対象者数)	300,000	単位 人
事業の実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ■[04]竹田城跡2016ヘリテージ講座 竹田城跡のスペシャリストを養成するため、市民参加型のヘリテージ講座を開催 ■[04]竹田城跡親子見学会 地域の誇る史跡への認知を高め、郷土への誇りを育むため、市内の小中学生とその保護者を対象とした見学会を実施 ■[04]竹田城跡環境美化委託業務 竹田城跡内の草刈り等の雑草清掃 ■[04]竹田城跡樹木等管理業務 樹木等の適正な管理を委託 ■[04]安全管理業務委託 測量により石垣の現状を把握し、危険性等を把握するための基礎資料等の作成を実施 ■[05]竹田城跡大手道及び北千畳保護工事(国庫補助事業) 大手道及び北千畳周辺の遺構保護工事と見学通路の整備を実施 ■[05]竹田城跡保存整備計画策定事業(国庫補助事業) 竹田城跡の保存整備に関する計画を策定(平成28・29年度の2か年を予定) ※[]の中の数字は細々目の番号			

2. 事業費等(単位:円)

区分	平成28決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	140,000	各種委員会委員・講演会講師等謝礼	298,000
9.旅費	412,280	各種委員会委員・講演会講師・職員出張旅費	333,210
11.需用費	727,488	印刷費・消耗品費等	63,005
12.役務費	308,860	保険料、モノレール法定点検、県証紙等	41,342
13.委託料	15,528,348	設計管理・計画策定・環境美化・樹木管理	17,399,772
15.工事費	12,809,880	竹田城跡大手道及び北千畳保護工事	26,466,480
25.積立金	34,310,724	竹田城跡保護基金積立金	29,213,619
合計	64,237,580		73,815,428
財源内訳	特定国庫支出金		9,280,000
	特定県支出金		4,640,000
	地方債		8,500,000
	その他		
	一般財源	50,317,580	
合計	64,237,580		73,815,428
国庫支出金を除いた比率			78.33%

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

[1]節区分	[2]説明	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
8.報償費	各種委員会委員・講演会講師等謝礼			298,000	140,000
9.旅費	各種委員会委員・講演会講師・職員出張旅費			333,210	412,280
11.需用費	印刷費・消耗品費等			63,005	727,488
12.役務費	保険料、モノレール法定点検、県証紙等			41,342	308,860
13.委託料	設計管理・計画策定・環境美化・樹木管理			17,399,772	15,528,348
15.工事費	竹田城跡大手道及び北千畳保護工事			26,466,480	12,809,880
25.積立金	竹田城跡保護基金積立金			29,213,619	34,310,724
事業費計		0	0	73,815,428	64,237,580
[4]正規職員人件費				9,393,745	7,032,650
[5]臨時職員人件費					
[6]総合計		0	0	83,209,173	71,270,230
財源内訳	特[7]国庫支出金			17,000,000	9,280,000
	定[8]県支出金			8,500,000	4,640,000
	財[9]地方債			0	0
	源[10]その他			0	0
	[11]一般財源		0	0	57,709,173
[12]合計		0	0	83,209,173	71,270,230
[13]国庫支出金を除いた比率		#DIV/0!	#DIV/0!	65.45%	78.33%

4. 成果指標等

[1]事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
竹田城跡ヘリテージ講座の開催回数	回			3	2
	回				
<<変化の理由>> 平成27年度は講座の実施回数が3回であったが、平成28年度のヘリテージ講座は「今伝えておかなければならないこと」をテーマとしており、それに該当する講師が2名であったため、ヘリテージ講座の開催回数も2回に減らすこととなった。					
[2]事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		25年度	26年度	27年度	28年度
竹田城跡ヘリテージ講座の参加者数	件			181	136
	人				
<<変化の理由>> 平成28年度のヘリテージ講座は、平成27年度と比較して開催回数が1回減ったことに伴い、参加者の合計数は減少した。しかし、講座1回あたりの参加者は増加しつつある。					

5. 今後の方向等

	①	②	③
現在認識している課題	適切な史跡保護と見学環境の整備	竹田城跡を将来に伝えるための人材育成	竹田城跡の魅力の発信と更なる活用
今後の方向性、見直し等	竹田城跡保存整備計画を策定し、石垣の修理や見学通路などの整備を実施し、城跡の適正な保護と見学環境の整備を進める。	講演会や見学会を通して、ふるさとに対する誇りや愛着心を高めるための周知活動を行い、人材の育成を図る。	竹田城跡の新たな魅力を発信するため、研究を進めることできちんとした価値付けを行なう。また、日本遺産などの取り組みと連携して情報発信・魅力の掘り起こしを進める。

6. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	25年度	26年度	27年度	28年度
竹田城跡ヘリテージ講座の参加者数			459,719	524,046
<p>《変化の理由及びそれへの対応策》 ヘリテージ講座については、平成28年度の開催回数を減らしたことが結果に現れている。ただし、1回あたりの参加者数は増加しているため、講座の需要は十分にあるものと思われる。平成29年度以降はさらに多くの参加者を得ることができると期待しているため、開催回数を増やすなどの取り組みを進める。</p>				

7. 事業環境

【1】市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	竹田城跡は天空の城として人気を集めている。市外からの観光客が増加している一方で、観光客の安全を確保するため地域の人が思いを寄せにくい状況となっている。竹田城跡を地域の誇りとして後世に伝えるため、竹田城跡の魅力・価値を市民が認識し、城跡への愛着を高めることが必要。
【2】近隣市町で提供されているサービス水準との比較	竹田城跡に類する認知を得ている山城はほかに無く、「史跡」の活用としては先駆的な取り組みを展開している。
【3】代替サービスの有無	なし 地域の誇りとしての魅力を高め、後世に守り伝えるための取り組みは代替サービスがない。

8. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	歴史文化遺産である竹田城跡を後世に引き継ぐための取り組みは、継続して行なわれるべきものである。市民が歴史文化遺産の価値を再認識し、ふるさとに対する誇りや愛着心を高めるためには、現在のような取り組みを継続することで着実に人材を育てることが必要である。また、今後は日本遺産などの取り組みなどと連携し、積極的に文化財を活用し、地域の魅力を発信していくことが必要であると考える。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	1	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

9. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	本市が全国に誇る歴史文化遺産である竹田城跡については、今後においても適切な保存管理に努めるとともに、観光振興や地域振興に活用すべきものとする。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	3	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

10. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

11. 最終評価

評価	評価理由
拡充	2次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	